



Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center
山口県立総合医療センター

人工関節センターのご案内



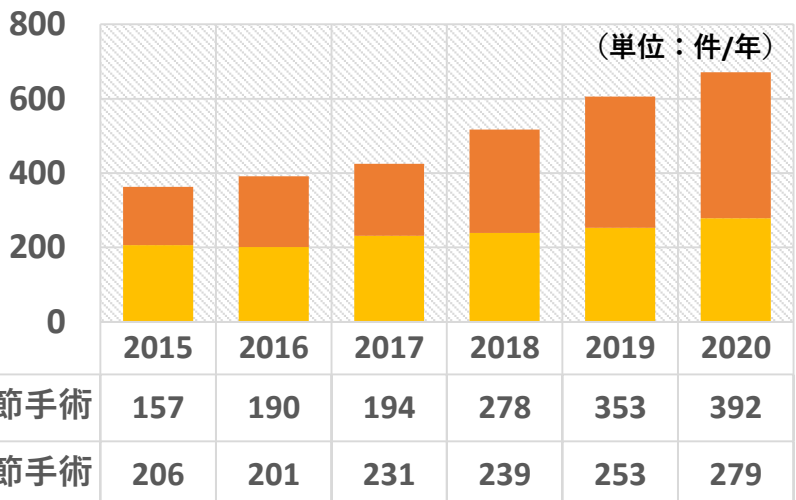
Message

当院においては平成22年1月に県内初の人工関節センターを開設しました。

人工関節センターの人工関節置換術は、県内はもとより西日本でトップクラスの手術件数を誇り、年間約670例（2020年）の人工関節手術を行っています。

山口県における人工関節手術の中心的な施設として、伝統と経験に基づいた質の高い治療を提供します。

■ 人工関節手術の実績（※2020年実績は見込み値）



人工股関節手術

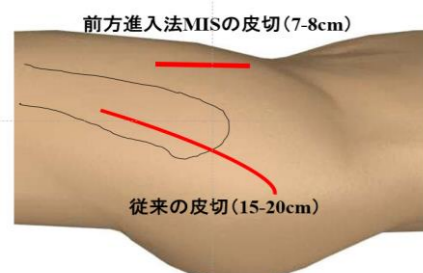
「手術したことを忘れていた関節」を再建することを目指しています。

副院長
田中 浩 (たなかひろし)



■ 前方進入法によるMIS(最小侵襲手術)という方法で人工股関節置換術を行っています。

前方進入法は、小さい創(約8cm)で関節周囲の筋肉を全く損傷しないため、術後の早期回復(翌日から歩行可能)が可能となります。



従来脱臼予防のため厳重な注意が必要であった生活動作の制限もほぼ不要で、正座やしゃがみ込み、和式トイレも可能です。



■ 当院は西日本で最多の、前方進入法による人工関節術の実績があります。

この方法はフランスで開発され、当院の故弓削名誉院長により日本で最初に導入されました。ただ、やや難易度が高いため、日本全体では15%程度の普及率に留まっています。そのような中、当院では西日本で最多の手術実績があり、豊富な経験に基づいた安全で確実な手術を行っています。



手術の実施風景

また、希望される方には、両側同時手術も可能です。



両側手術写真

さらに、術後の患者さんの中にはゴルフやテニスなどのスポーツを楽しんでいる方もいらっしゃいます。



人工膝関節手術

複数診療科、他職種との協働により患者さんへ質の高い治療を提供します。

人工関節センター センター長
椎木 栄一 (しいぎえいいち)

■ 多数の専門科や他職種スタッフと協働し、万全の体制で高度な医療を提供いたします

人工関節手術は、基本的にMIS(最小侵襲手術)という方法で行っています。この方法は傷が小さいだけでなく、術後の回復も早く、リハビリもスムーズに進められるのが特徴です。



リハビリの実施風景

また、人工関節手術を受けられる患者さんは合併症を有する場合がありますが、当院は県内トップレベルの総合病院であり、専門科へのコンサルト、充実した麻酔科スタッフなど、万全の体制で手術を受けることが可能です。



ROSA Kneeシステム

■ 2021年4月よりロボット2台体制で運用開始

当院では、2020年11月にジンマー・バイオメット社の「ROSA Kneeシステム」を国内において2台目に導入し、より高度で最先端な医療提供が可能となりました。さらに、2021年4月には、全国でもほとんど例のないロボット2台体制となります。これからも患者ニーズに確実に応えられるような体制づくりを行っていきます。

■ ロボットアームサージャリー(ROSA Kneeシステム)を用いた手術のご紹介

インプラント(人工関節)の設置は、骨切り量や角度を含め術者の経験によるところが大きく、熟練度によって手術成績に差が出るのが課題でした。ROSAでは、人間の精度を上回る正確性と安全性を持っています。術者の手技をより正確にサポートするため、熟練度に関わらず良好な手術実績が期待できます。